

# ホクコーオーソサイド®水和剤80

■種類名：キャプタン水和剤  
 ■有効成分：キャプタン-----80.0%  
 ■化管法指定物質：キャプタン [第1種] -----80.0%  
 ポリ(リンシロリン)＝アルキルフェニル (アルキル基の炭素数が9のものに限る。) [第1種] -----1.0%

■登録番号：第10529号  
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指すという通称)  
 ■登録初年：1969.11.20  
 ■性状：類白色水和性粉末 45µm以下  
 ■有効年限：5年  
 ■包装：500g×20袋、1.25kg×12袋  
 1kg×10袋(北海道のみ)

## 【特長】

- 広範囲の病害に安定した予防効果を示す園芸用殺菌剤。
- りんご、なし、ぶどう、もも、うめなどの果樹類、ナス科、ウリ科などの果菜類、小麦、ばらなどの花き類まで適用作物も幅広い。
- 散布剤としての用途のほか、種子消毒などにより腐敗病や苗立枯病などの土壌病害にも有効である。

## 【適用内容】(2024年11月末日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	キャプタンを含む農薬の総使用回数
小麦	赤かび病、葉枯症 ふ枯病	600~1000	60~150ℓ/10a	収穫14日前まで	4回以内		4回以内
	黒変病、黒点病	1000~1500					
りんご	黒星病	600~1000	200~700ℓ/10a	収穫前日まで	6回以内	散布	6回以内
	黒点病	800~1200					
	斑点落葉病、輪紋病 褐斑病、すす点病 すす斑病	600~800					
	炭疽病	800					
なし	赤星病、黒星病、輪紋病 疫病	600~1000	200~700ℓ/10a	収穫3日前まで	9回以内	散布	9回以内
	かき	落葉病、炭疽病 すす点病					
くるみ	炭疽病、褐斑病	800	200~700ℓ/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
ぶどう	晩腐病、褐斑病 灰色かび病、べと病 枝膨病、黒とう病	800		収穫30日前まで	3回以内		3回以内
もも	縮葉病	600	200~700ℓ/10a	発芽前	4回以内	散布	4回以内
おうとう	褐色せん孔病、灰星病 炭疽病	800		収穫3日前まで	5回以内		5回以内
マルメロ	黒点病	1000	200~700ℓ/10a	収穫14日前まで	6回以内	散布	6回以内
小粒核果類	黒星病	800~1000		200~700ℓ/10a	収穫21日前まで		3回以内
	すす斑病	800					
ブルーベリー	斑点病	500~1000	200~700ℓ/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	5回以内 (生育期は2回以内、 収穫終了後～落葉期 までは3回以内)
	すす点病、灰色かび病	500					
はくさい	黒斑病、白斑病 苗立枯病	600~1200	200~700ℓ/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	6回以内 (種子粉衣は1回以内、 は種後は5回以内)
	べと病、炭疽病	600					
トマト	疫病	800~1200	200~700ℓ/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内 (種子粉衣は1回以内)
	葉かび病、灰色かび病	800					
きゅうり	炭疽病、褐斑病、つる枯病	600~800	200~700ℓ/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内 (種子粉衣は1回以内)
	べと病	600					
すいか メロン	べと病、つる枯病	600	200~700ℓ/10a	収穫14日前まで	5回以内	散布	5回以内 (種子粉衣は1回以内)
	炭疽病	400~800					
しろうり かぼちゃ	べと病	600	200~700ℓ/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	6回以内 (種子粉衣は1回以内、 は種後は5回以内)
	炭疽病	400~800					
たまねぎ	灰色かび病、白色疫病 苗立枯病、軟腐病	600	200~700ℓ/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	6回以内 (種子粉衣は1回以内、 は種後は5回以内)
葉たまねぎ	灰色かび病、白色疫病 苗立枯病	600		収穫7日前まで			

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	キャプタンを 含む農薬の 総使用回数	
いちご	灰色かび病、炭疽病 芽枯病	800	100～ 300 ㍓ /10a	収穫開始 14 日前まで	5 回以内	散布	5 回以内	
いんげんまめ	炭疽病	600～1200		収穫 30 日前 まで	2 回以内		3 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)	
しょうが	白星病	600		収穫 3 日前 まで	2 回以内		5 回以内 (塊茎粉衣は 1 回以 内、灌注は 2 回以内、 散布は 2 回以内)	
ごぼう	黒斑病	800		収穫 14 日前 まで	5 回以内		6 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 5 回以内)	
パパイヤ	炭疽病、黒腐病	600	200～ 700 ㍓ /10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内		8 回以内	3 回以内
マンゴー	炭疽病							
パイナップル	根腐萎凋病	500	300～ 400 ㍓ /10a	収穫 21 日前 まで				
花き類・ 観葉植物 (ばら、りんどう、 せんいちこう、コ スモス、ひまわり、 シネラリア、スイ トピー、みやこわ すれ、アンスリウ ム、斑入りアマド コロを除く)	茎腐病、立枯病 苗立枯病	600	100～ 300 ㍓ /10a	-	8 回以内	8 回以内		
ばら	黒星病 茎腐病、立枯病 苗立枯病	800						
りんどう	葉枯病、茎腐病 立枯病、苗立枯病							
せんいちこう	斑葉病、茎腐病 立枯病、苗立枯病							
コスモス	そうか病、茎腐病 立枯病、苗立枯病							
ひまわり	べと病、黒斑病 茎腐病、立枯病 苗立枯病	600						
シネラリア	褐斑病、茎腐病 立枯病、苗立枯病							
スイトピー	腰折病、茎腐病 立枯病、苗立枯病							
みやこわすれ アンスリウム	根腐病、茎腐病 立枯病、苗立枯病							
斑入りアマドコロ	斑点病、茎腐病 立枯病、苗立枯病							
せんりょう	炭疽病							
ゆきやなぎ	苗立枯病	1000						
芝	葉腐病 (フラクハッチ)	300～500					0.5～2 ㍓/㎡	発病初期
		500～800	1～2 ㍓/㎡					
	赤焼病	300～800						
西洋芝 (ベントグラス)	炭疽病	300～500	0.5㍓ ㍓/㎡					

作物名	適用病害名	希釈倍数 又は使用量	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	キャプタンを 含む農薬の 総使用回数
せり科葉菜類 (せりを除く) とうがらし類 オクラ	苗立枯病	800倍	2ℓ/m <sup>2</sup>	は種後から 2～3葉期 まで	2回以内	灌注	3回以内 (種子粉衣は1回以内、 は種後は2回以内)
トマト、きゅうり なす、メロン すいか、しろりり かぼちゃ		種子重量の 0.2～0.4%	—	は種前	1回	種子粉衣	5回以内 (種子粉衣は1回以内)
ピーマン		800倍	2ℓ/m <sup>2</sup>	は種後から 2～3葉期 まで	5回以内	灌注	
		種子重量の 0.2～0.4%	—	は種前	1回	種子粉衣	2回以内 (種子粉衣は1回以内)
しょうが	根茎腐敗病	塊茎重量の 2%	—	植付前	1回	種子粉衣	5回以内 (塊茎粉衣は1回以内、 灌注は2回以内、 散布は2回以内)
		400倍	3ℓ/m <sup>2</sup>	収穫30日 前まで	2回以内	灌注	
チューリップ	青かび病	800～ 1000倍	—	球根掘取時 及び植付時	8回以内	球根浸漬	8回以内
アイリス				植付前		30分間 球根浸漬	
ゆり	腐敗病	400倍	植付前 または 貯蔵前	1回	種子処理機 による種子 粉衣		
野菜類 (いも類を除く) 飼料作物 未成熟 とうもろこし 花き類・観葉植物	ピンウム・ リゾクトニ ア菌による 病害 (苗立枯病等)	種子重量の 0.2～0.4%	は種前			8回以内	

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の 使用回数	使用 方法	キャプタンを含む 農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
西洋芝 (ベントグラス)	藻類 コケ類	芝生育期 (雑草発生初期)	1～2g/m <sup>2</sup>	0.5ℓ/m <sup>2</sup>	8回以内	散布	8回以内

### 【効果・薬害等の注意】

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液等のアルカリ性薬剤及びマシン油剤との混用はさけること。
- りんごの斑点落葉病に対して、後期の多発時では効果が劣ることがあるので、初期の防除を主体とすること。黒点病、黒星病などとの同時防除に使用するのが有効である。
- パイナップルの根腐萎凋病防除に使用する場合は、植付後1ヵ月以内及びその後発生をみたら直ちに、散布液が株元の土壌にも浸透するように散布すること。
- おうとうに使用する場合、5月下旬以降の散布には、固着性の強い展着剤を加用しないこと。
- ももの縮葉病防除に使用する場合は、発芽後の若葉には薬害のおそれがあるので、必ず発芽前に散布すること。
- うめに対する高温時の散布は、薬害を生じるおそれがあるので、5月下旬以降の防除は高温時をさけて散布すること。
- チューリップに使用する場合は、球根の土をよく落とし、15分間位浸漬すること。
- いちごに対する高温時の散布は、薬害を生じるおそれがあるので、夏期の防除は高温時をさけて、朝夕などの涼しい時に散布すること。
- ぶどうに使用する場合、幼果期～袋掛けまでの散布は、果粉の溶脱や果実の汚染を生じることがあるので十分注意すること。
- マンゴーに使用する場合、着色期以降の散布では果実に汚れを生じるおそれがあるので十分注意すること。
- ブルーベリーに使用する場合、果実肥大期以降の散布では果実に汚れを生じるおそれがあるので十分注意すること。
- コケ類に対して使用する場合は、散布時期を逸さないよう発生初期に本剤を散布し、十分な効果が得られない場合には、14日前後の間隔で反復処理を行うこと。
- 本剤を使用したつまみ菜、間引き菜等の幼植物は食用に供さないこと。
- カラー及び花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないこと。また使用後14日間は入水しないこと。

- 本剤で塊茎粉衣処理した種しよがは食料や動物飼料として用いないこと。また、収穫時には新しよがと塊茎粉衣処理した種しよがを分別し、塊茎粉衣処理した種しよがは確実に廃棄すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。

#### 【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
- ❖ 本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 薬液調製時及び使用の際は保護眼鏡、農業用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物との接触をさけること。
- ❖ 夏期高温時の使用をさけること。
- ❖ 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用はさけること。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。  
浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

